



アラームとイベントのモニタリング

このセクションでは、次の点について説明します。

- [アラームとイベントのモニタリング \(1 ページ\)](#)

アラームとイベントのモニタリング

この章では、アラームとイベントのモニタリングについて説明します。

アラームおよびアラーム サマリー

[Alarms] ページと [Alarm Summary] ページを表示することができます。[モニタ (Monitor)] > [アラーム & イベント (Alarms & Events)]。

[Alarms] タブには、Alarm ブラウザの各アラームの次の情報が表示されます。

Severity

アラームの重大度が表示されます。アラームの重大度は、「重大」、「やや重大」、「軽度」、「警告」のいずれかです。アラームの折りたたみアイコンには、アラームの一般情報、メッセージ、コメント、アラームに対する推奨処置が表示されます。

アラームに関連付けられているイベントを表示するには、アラームの重大度にマウスを合わせてクイックビューアイコンをクリックします。[Events for Alarm] ページが表示され、次の詳細が示されます。

- [説明 (Description)] : アラームの説明。
- [ステータス (Status)] : アラームをトリガーしたデバイス。
- [時刻 (Time)] : アラームが発生した日付と時刻。

このサマリーウィンドウは、最新の5つのイベントのみがリストされます。すべてを網羅したリストを確認する場合は、[See Event History] を確認してください。

[Events for Alarm] で、次の項目をクリックできます。

- [See Event History] リンク : 選択したアラームに関連するイベントを表示します。

- [エンドポイントのモニタ (Monitor Endpoint)] または [会議のモニタ (Monitor Conference)] リンクは、[エンドポイントモニタリング (Endpoints Monitoring)] または [会議モニタリング (Conference Monitoring)] ページを開きます。このリンクは、会議アラームおよびエンドポイントアラームでのみ表示されます。

クリップボードアイコン/注釈付き

アラームにユーザの注釈が付いていることを示します。

ステータス

アラームのステータスが表示されます。

アラームのクリア状態の詳細を示します。

アラーム名

生成されたアラームの名前。アラーム名、および表示される [Quickview] アイコンにマウスを合わせて、選択したアラームの詳細を表示します。

顧客

Cisco Prime Collaboration Assurance が MSP モードでインストールされている場合は、[アラーム (Alarms)] と [アラームの概要 (Alarm Summary)] の両方で、デバイスの所属先であるユーザが表示されます。

デバイス名

アラームがトリガーされたデバイスの名前を表示します。

デバイス IP

デバイスの IP アドレスを表示します。このリンクを使用して、ページ内にエンドポイントまたはインフラストラクチャ デバイス ログを起動することができます。

Cisco Prime Collaboration Assurance が MSP モードで展開されている場合は、このリンクを使用してページ内にエンドポイントまたはインフラストラクチャ デバイス ログを開くことはできません。

コンポーネント名

デバイス名、またはデバイス プール、インターフェイスなどのコンポーネントの名前。

最終更新日

アラームの発生日時を表示します。

デバイス タイプ

デバイスのタイプを表示します。

オーナー

このアラームが割り当てられた人物の名前を表示します。(名前が入力されている場合)。

説明

アラームに関する簡単な説明を表示します。

カテゴリ

アラームのカテゴリを表示します。たとえば、会議、エンドポイント、サービスインフラストラクチャがあります。

エンドポイント名

識別しやすくするためにエンドポイントに割り当てられた名前です。デフォルトでは、[Endpoints Name] 列は非表示になっています。すべての列を表示するには、右上の隅にある [Settings] オプションをクリックします。

モデル

ciscoEX90、ciscoCTS500、ciscoC20 などのデバイス モデルを表示します。

プライベート IP アドレス

Cisco Prime Collaboration Assurance が MSP モードでインストールされている場合は、デバイスのプライベート IP アドレスが表示されます。デフォルトでは、[Private IP Address] 列は非表示になっています。すべての列を表示するには、右上の隅にある [Settings] オプションをクリックします。

アラーム ブラウザを使用することで、次のことができます。

- アラームに関連付けられているイベントの表示：アラームステータスの隣のアイコンにマウスを合わせるとポップアップウィンドウが表示され、そのアラームに関するすべてのイベントが示されます。
- アラームをクリアするか、確認応答します。
- アラームの割り当て：目的のチェックボックスをオンにし、[assign] ドロップダウン リストの [Assign to me] をクリックします。
- 注釈の追加：目的のチェックボックスをオンにし、[注釈 (Annotate)] ドロップダウン リストをクリックして、注釈を追加します。
- アラームの削除：目的のチェックボックスをオンにし、[削除 (Delete)] をクリックします。
- 電子メール通知の設定：目的のチェックボックスをオンにし、[電子メール通知 (Email Notification)] をクリックします。受信者アドレス、コメント、および件名を入力し、[Submit] をクリックします。サポートされているアラームとイベントの一覧については、『[Cisco Prime Collaboration でサポートされているアラームとイベント](#)』を参照してください。

アラームの概要

[アラームの概要 (Alarm Summary)] には、各デバイスのアラームのサマリーが表示されます。

次の要素は、アラームの概要がアラームと異なる点です。デバイスを選択すると、ページの下部の [Alarms and Events for device] ペインに、選択に対応するアラームとイベントが表示される。CSV または PDF ファイルとしてアラームをエクスポートできます。アラームをエクスポート

トするには、必要なアラームを選択し、[アラームの概要 (Alarm Summary)] ペインの右上にあるエクスポートアイコンをクリックします。

[アラームの概要 (Alarm Summary)] には、次の情報が表示されます。

重大度

アラーム重大度アイコン。アラームの重大度を示します。

直近 15 分

これがテーブル内の最新のデバイスの 1 つであることを示します (直近 15 分以内)。デバイスは最新のイベント ステータス変更時刻に基づいてソートされます。

デバイス名

デバイス名または IP アドレスです。

デバイス IP

デバイス IP です。クイック ビュー アイコンをクリックし、デバイス 360° ビューを起動します。

タイプ

デバイス タイプです。

重大度列

- [重大 (Critical)] : 重大なアラームの合計数。
- [やや重大 (Major)] : やや重大なアラームの合計数。
- [軽度 (Minor)] : 軽度なアラームの合計数。
- [警告 (Warning)] : 警告アラームの総数。

最終更新時間

アラームがアップデートされた日付と時刻 (アラームの繰り返し、アラーム確認応答、注釈の追加などのアクティビティを示します)。アラームは重大度でグループ化され、重大度別に、一番最後に変更されたアラームがリストの先頭になります。

エンドポイント名

識別しやすくするためにエンドポイントに割り当てられた名前です。デフォルトでは、[Endpoints Name] 列は非表示になっています。すべての列を表示するには、右上の隅にある [Settings] オプションをクリックします。

プライベート IP アドレス

Cisco Prime Collaboration Assurance が MSP モードでインストールされている場合は、デバイスのプライベート IP アドレスが表示されます。デフォルトでは、[Private IP Address] 列は非表示になっています。すべての列を表示するには、右上の隅にある [Settings] オプションをクリックします。

[Event]

イベント タブには次の情報が表示されます。

ID

イベントの固有の ID 番号。

重大度

イベントの重大度は、重大、やや重大、比較的重大ではない、警告、および情報のいずれかです。イベントリストを重大度別（昇順または降順）にソートするには、タイトルをクリックします。イベントがクリアされると、重大度は情報に変更されます。

ステータス

イベントの現在のステータスです。

イベント名

イベントの名前です。イベントの詳細を表示するには、クイック ビュー アイコンにマウスを合わせます。[Event Customization] ページに対して相互起動するには、[Customize Event] をクリックします。これにより、選択したイベントの詳細が表示されます。イベントの詳細を編集するには、イベントを展開して [Custom Rule] をクリックします。

顧客

Cisco Prime Collaboration Assurance を MSP モードでインストールした場合、そのデバイスを所有するカスタマーは [イベント (Events)] ペインに表示されます。

デバイス名

イベントの名前です。イベントの詳細を表示するには、イベント名にマウスを合わせます。

デバイス IP

デバイスの IP アドレスを表示します。リンクを使用して、エンドポイントまたはインフラストラクチャ デバイスを起動できます。

コンポーネント名

デバイス名、またはデバイス プール、インターフェイスなどのコンポーネントの名前。

最終更新日

イベントの発生日時を表示します。

デバイス タイプ

デバイスのタイプを表示します。

カテゴリ

会議、エンドポイントなどの、アラームが割り当てられたカテゴリを表示します。

説明

イベントの説明

エンドポイント名

識別しやすくするためにエンドポイントに割り当てられた名前です。デフォルトでは、[Endpoints Name] 列は非表示になっています。すべての列を表示するには、右上の隅にある [Settings] オプションをクリックします。

モデル

cat4506、ciscoMCS7828I などのデバイス モデルを表示します。

プライベート IP アドレス

Cisco Prime Collaboration Assurance を MSP モードでインストールした場合、デバイスのプライベート IP アドレスが表示されます。デフォルトでは、[Private IP Address] 列は非表示になっています。すべての列を表示するには、右上の隅にある [Settings] オプションをクリックします。



- (注)
- 発生したイベントの最新の一覧を表示するには、更新アイコンをクリックします。
 - Cisco Prime Collaboration Assurance を MSP モードでインストールした場合、デバイスが属しているカスタマーを参照することができます。
 - 任意の時点で、[Alarm ブラウザ] または [Alarm 概要] を表示するには、右下のリンクをクリックします。

コール イベントの表示

Cisco Prime Collaboration Assurance には、Cisco TelePresence Management Suite (TMS) の情報イベントが表示されます。また、Cisco TelePresence System Profile MXP シリーズ デバイスである Cisco TelePresence Integrator C シリーズのコーデックと Cisco TelePresence Video Communication Server (VCS) のコール接続または接続解除された情報を表示します。

コール イベントは一度に 1 台のサポート対象デバイスのみについて表示できます。

コール イベントを表示するには:

ステップ 1 Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

移行方法 [インベントリ (Inventory)] > [インベントリ管理 (Inventory Management)]

ステップ 2 デバイスを選択し、[Call Events] をクリックします。

(注) コール イベントは、Cisco VCS、MXP、MCU デバイスおよびコーデックだけに表示されます。

ステップ 3 [Call Events] ページには次の詳細情報が表示されます。

MXP およびコーデックの場合:

- 開始時間: コールの開始時刻

- リモート サイト：コールが発信されたサイト
- コール状態
- 持続時間
- コールの方向：着信コールか発信コールか
- コールプロトコル：H323/SIP
- 暗号化モード
- 原因
- 帯域幅
- コール ID
- VCS の場合：
 - 時刻
 - 送信元アドレス
 - 送信元エイリアス
 - 接続先
 - 住所
 - 接続先エイリアス
 - 持続時間
 - コール状態
 - コール
 - プロトコル
 - 帯域幅
 - コールタイプ

アラームとイベントに関する注意事項

1. ポーリング間隔に依存するアラームは、アラームが発生して次のポーリングの前に消去される場合があります。そのため、Cisco Prime Collaboration Assurance には報告されません。
2. **SIPTrunk Out Of Service (OOS) 相関アラームの動作：**

SIP Trunk OOS : この関連アラームは、複数の SIPTrunk OOS アラームを追跡および結合し、クラスタ レベルで1つの関連付けられたアラームを生成するために導入されています。関連関係は、2分間の時間ウィンドウで発生します。

関連アラームをクリアするための条件は、次のとおりです。

- SIPTrunk OOS 関連アラームは、InService Syslogs を処理して関連付けられている個々の SIPTrunk OOS アラームをクリアすることで、クリアされます。
- 時間ベースでクリアすることもでき、関連アラームは 24 時間後に自動的にクリアされます。

上記の条件を使用し、次のいずれかのシナリオで関連アラームをクリアすることができます。

シナリオ 1 :

- SIPTrunk OOS アラームが、Cisco Prime Collaboration Assurance で発生します。
- 個々の SIPTrunk OOS アラームが関連付けられ、対応する SIPTrunk OOS 関連アラームがクラスタ レベルに上げられます。
- SIPTrunk OOS は SIPTrunks が戻るとクリアされ、対応する SIPTrunk OOS もクリアされます。

シナリオ 2 :

- SIPTrunk OOS アラームが、Cisco Prime Collaboration Assurance で発生します。
- 個々の SIPTrunk OOS アラームが関連付けられ、対応する SIPTrunk OOS 関連アラームがクラスタ レベルに上げられます。
- SIPTrunk が 24 時間以上停止します。
- SIPTrunk OOS は、24 時間の時間ベースに基づき 24 時間後にクリアされ、SIPTrunk のサービスが再開して syslog が処理されると、SIPTrunk OOS の個々のアラームはクリアされます。

シナリオ 3 :

- 個々の SIPTrunk OOS アラームが 2 分間の関連ウィンドウ内ですばやく生成され、クリアされます。
- 関連エンジンは依然として実行され、SIPTrunk OOS 関連アラームを発生しますが、対応する個別のアラームがすでにクリアされたため、SIPTrunk OOS はそのまま残ります。
- 次に、関連アラームは、24 時間の時間ベースに基づき 24 時間後に自動的にクリアされます。

3. マルチ ノード コール マネージャ クラスタでは、同じアラートが複数のノードに存在する場合、PCA は 1 つの新しいアラートを表示します。

4. RTMT アラートのポーリング頻度

Cisco Prime Collaboration リリース 12.1 以降の場合

小、中、大のセットアップでは、RTMT アラートのデフォルトのポーリング頻度は1分となっており、特大の設定で推奨されるポーリング頻度は2分です。

